

国立大学法人大阪大学総長の業績評価について

令和 7 年 3 月 26 日

大阪大学総長選考・監察会議

国立大学法人大阪大学総長選考・監察会議規程第 3 条第 2 号並びに令和 3 年 9 月 2 日及び令和 6 年 12 月 6 日の総長選考・監察会議決定に基づき、総長任期 2 期目の 4 年目に行う業績評価として、令和 6 年 3 月から令和 7 年 2 月までの期間における業務執行状況の確認を行った。

1. 業務執行状況の確認方法

総長選考・監察会議は、総長から次の点について説明を求め、業務執行状況の確認を行った。

- 大阪大学の中長期的な経営ビジョンである「OU (Osaka University) マスタープラン 2027」の実現に向け、総長任期 2 期目の 3 年 7 カ月余りの期間で重点的に推進することとされている「ACE」プロジェクトに関する具体的な実績・成果
- 総長任期 2 期目の総括や「OU マスタープラン 2027」の主な進捗状況、並びに今まで積み上げた活動を次期執行部に継承する仕組みや体制の構築状況

上記の総長による業務執行状況の説明と総長に対する質疑応答の終了後に、

- 「ACE」プロジェクトの実行
- 「OU マスタープラン 2027」の実行
- 社会の変化に対応した大学経営の推進
- 次期執行体制への経営の継承

の 4 点について、監事との意見交換を行った。

2. 結果

「OU マスタープラン 2027」の実現に向け、適切なリーダーシップを発揮し、教育、研究、経営について、それぞれの持続可能な基盤整備や取組みを実行しており、総長としての責務を十分に果たしていると言える。

特に、重点的に推進することとしていた「ACE」プロジェクトの各取組みについては、以下のとおり着実に実行されており、高く評価できる。

① 部局との意思疎通の強化 (Active Dialogue)

部局や構成員との対話を着実に重ね、個々の意見について真摯に傾聴している。こうした取組みの目指すところは、様々な立場の構成員が大学経営を「わがこと」として考える風土を生み出し、そうした風土の中から大学の進むべき方向を決めていくことにある。構成員が大学経営を「わがこと」と考えるための対話の仕組みが組織風土として定着してきている。

② 財務基盤強化の実現 (Credible Financial Foundation)

共同研究費受入額の増加や国立大学改革・研究基盤強化推進補助金の採択など、着実に財務基盤強化が進められている。また、大学債による GIFT プロジェクトも具体化されており、物価高騰等の影響はあるものの、着実に進行している。今後、国際卓越研究大学に採択された場合には、より一層、卓越した研究者や若手研究者のため研究環境の充実を図ってほしい。

③ 活力ある事務組織の構築 (Empowering Our Organization)

大学経営の高度化に向けて、生成 AI の導入といった DX の推進により事務職員の定型業務を減らし企画業務に割く時間を増やすことや、職員研修の内製化促進、若手事務職員と総長との対話会の実施など、組織のエンパワメントに積極的に取り組んでいる。

また、OU マスタープラン 2027 の進捗状況についても、上記「ACE」プロジェクトを含め、着実に各種施策を実施しており、高く評価される。

特に、自由な発想が芽吹く研究環境の構築が進み、優秀な若手研究者や女性研究者が多く輩出されていること、また、学外のステークホルダーとの共創を目指すための活動を積極的に展開し、産業界や東京方面への発信の足掛かりを構築されたことは評価に値する。

最後に、今まで積み上げた活動や国際卓越研究大学への採択に向けて、次期執行部への事業の継承も綿密かつ着実に行われており、変革期の組織を運営されてきたことは賞賛に値する。